

にいなめさい 宮中祭祀「新嘗祭」に米を献穀

令和5年11月23日、宮中恒例祭祀のなかでも最も重要な祭事とされる新嘗祭が執り行われ、市内宮沢区の農家・清水房雄さんのお米が、長野県からの献穀米として供進されました。小諸の米農家としては初の快挙です。



伝達式での清水さん。宮内庁からの伝達書・磁器の杯と一緒に。

自分の米作りを信じて

「最初に献穀米の話をしていただいた時は、嬉しさ半分・驚き半分が正直な気持ちでした。しかし自分の米作りには自信を持って取り組んでいるため、県内でも美味しいお米を作る農家がたくさんいる中、今回献穀米に選ばれたのは名誉なことであり、とても嬉しく思います。」と清水さんは笑顔を見せてくれました。作っている米の品種はコシヒカリ。作り始めた当初から栽培方法は大きく変えておらず、これからも同じ方法で続けていくと言います。中でも特にこだわっているのは土づくりです。「毎年3月20日頃に肥料を土に混ぜ、微生物を増やし、おいしいお米につなげています。耕作地の御牧ヶ原は雑排水が少なく、微生物の生育にも良い環境です。稲の生育状態は分けつ（枝分れ）を見て判断しています。」と話してくれました。なお昨年は酷暑だったため、稲刈りは例年より10日ほど早かったとのこと。「収穫量は例年より二割増でしたが、刈取りのタイミングは味に直結するので非常に難しかったです。」

米作りでは頂点を極めることができました
次は地域農業の発展にも力を尽くしていきたいです



清水房雄さん（80歳）宮沢区

小諸米スターズクラブ代表。小諸市御牧ヶ原土地改良区理事長。元農業委員。平成28年から8年連続でベストファーマーの認定を受けており、令和4年12月の「第24回米・食味分析鑑定コンクール国際大会in小諸」では最高賞の国際総合部門・金賞を受賞。

「私のまわりでも農家の数は減っています。高齢化や農地の不整形が主な原因です。効率の悪い農地になっているところも多く、特に畑は耕作されていないところが目立ってきています。」

農業の課題とこれから

ウを活かしており、方向性を決めたら、ぶれずに同じ作り方を続ける。その過程で足りないものがあつたら、情報収集しながら直していく。という二つの点を大切にしていると言います。今後について、「米作りは続けつつ、地域で技術を共有していきたいです。今でも情報交換はしていますが、地域全体で米作りの技術が上がれば、最終的には御牧ヶ原のお米が銘柄米になると嬉しいですね。」と穏やかに、そして熱く想いを話してくれました。

また離農する人たちも今後増えてくると思われるので、篤農家（規模の大きい熱心な農家）にある程度農地を集約し、効率のいい農業を進めていく必要があると思っています。これは市内全体でも同じではないでしょうか。」と農業の課題にも触れました。

そして最後に清水さんはこう締めくくりました。「地域ごとに集合体をつくり、農地管理についてみんなで考え、盛り上げられれば良い農業につながると思います。小諸全体の農業のブランド力が上がり、ゆくゆくは小諸の農産物は何を食べてもおいしいね。」と言われるようになってほしいです。」

冷めても、美味しい

清水さんのお米は一つ一つの粒が立っており、噛むほどに甘さが出て旨味が広がります。おかず無しでも完食できる逸品です。また、ふるさと納税の返礼品にもなっています。



小諸の農業の未来、一緒に考えてみませんか？

ご存じですか？
小諸で生産が盛んな農産物



■ 野菜・米

ブロッコリー生産量は県下随一。また、冷涼な気候で育つレタス・キャベツ・白菜などの高原野菜は鮮度が良いため、市場から品質の良さが評価されています。良食味米の産地でもあり、国際的なコンクールでは入賞者も多数です。

■ 果樹

「雨が少なく晴天率が高い」「昼夜の寒暖差が大きい」気候のため、桃、林檎、ブルーベリー、ワイン用ぶどうなど果樹の生産も盛んです。昼間は太陽光を浴び、夜は寒さから実を守るために糖分が蓄えられて、おいしい果物が作られます。

■ 伝統野菜

「ひしの南蛮」「そら南蛮」「御牧いちご」「白土馬鈴薯」など歴史ある品種が、農家さんの手で守られています。

高品質な小諸の農産物

小諸市は浅間南麓の南西傾斜地と千曲川沿いの台地からなる起伏に富んだ地形が特徴です。耕地の標高は580mから1200mにおよび、中山間地特有の傾斜地であるため、一般的には農産物の生産条件には不利な地形とされています。しかしこのような条件下でも、農家さんが火山灰土・粘土質・砂地等の土壌を活かし、努力や工夫を重ねながら適地適作を進めてきたことで、質が高く魅力的な農産物（品目）が数多く生産され、消費者のもとへ届けられています。

一方で日本各地と同様に小諸市でも、高齢化、生活様式の変化、気候の変化などから「生産者不足」「後継者不足」といった課題を抱えています。今回の特集では、国際的なコンテストで賞を受賞するなど、多方面で活躍されている農家・清水房雄さんのご活躍を紹介しつつ、農業の未来を皆さんと一緒に考えていく「地域計画」についてお知らせします。小諸の農業の未来について、一緒に考えましょう。

COLUMN

浅間水蜜桃 × 明治屋ニューボーシヤム

三岡地区を中心に栽培される桃「浅間水蜜桃」は高い糖度が特徴です。(株)明治屋様からは品質の高さを評価いただき、昨年10月に発売されたニューボーシヤム「桃」の原材料として採用されました。



持続可能な農業のため 農業の地域計画を策定します

農業者委員会事務局

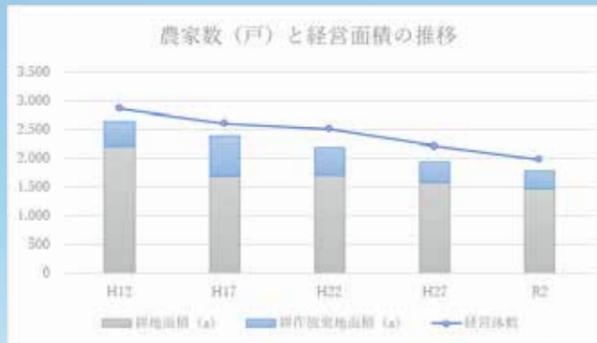
10年後の農業を 見据えて

“自分はあと何年農業をやっているだろうか” “先祖代々田畑を守ってきたが、農業を継いでくれる人がいなくて心配だ” “自分の農地を使って耕作してくれる人はいるだろうか”

農業の今後について、不安を持っている農業者は多いと思います。

また、“新規に農業を始めたけれど、どこで始めたらいいかわからない” “始めたはいいが、うまく続けられない” “心配だ” という若い方の声もあるかもしれません。

日本各地で農業者の減少は進んでおり、小諸でも直近20年で農業就業人口が約33%減少し、今後農地が適切に利用されなくなることを懸念されます。



が懸念されます。こうした課題の解決には、農業者をはじめ、普段農業に関わることが少ない若い世代や女性の方も踏まえて、まずは地域ぐるみで話し合いをし、農地利用の将来についてみんなで考えていく必要があります。

【地域計画】とは？

農業者の高齢化などにより、農地が適切に利用されなくなることを懸念されており、効率的で持続可能な農業経営を行うため、農地の集約化や後継者の確保などを計画的に行う必要があります。

【地域計画】とは、10年後の農業のかたちを地域ごとに話し合い、農地を集約しながら、将来「誰が」「どのように」利用するかを明確にした【目標地図】を記す計画のことです。計画の策定により農業を維持・発展させ、食糧の安定供給や効率的な農作業を機能させることを目標としています。

農業の将来を みんなで考える

【地域計画】を進め、農作業をしやすい環境を作っていくには、農業者だけではなく、様々な人の意見を取り入れながら計画策定を進める必要があります。

今回、小諸の農業の未来を考える意見交換会を開催します。普段農業に触れることが少ない方も、ぜひご意見をお聞かせください。

従来は「人・農地プラン」により農業の将来像を地域で話していましたが、【地域計画】ではそれに加えて「誰が耕作するか」話し合い【目標地図】の作成を行います。

令和5年に農業経営基盤強化促進法が改正され、令和7年3月までに計画を策定することが義務付けられました。

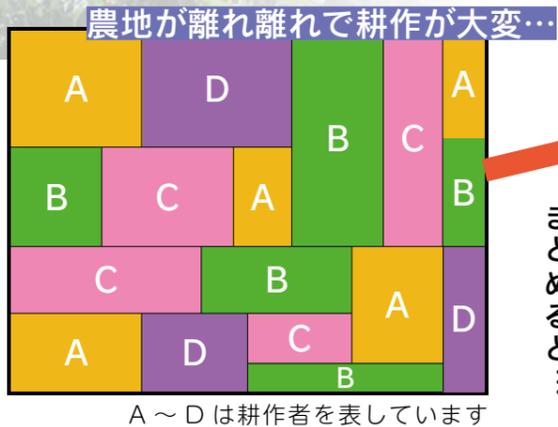
【目標地図】作成のイメージ

10年後の農地利用の姿を示した地図が【目標地図】です。守るべき農地のエリアを決め、農地1筆ごとに農業の担い手を明記します。また、条件の良い農地は粗放的利用*とし、どのように利用していくかを明確化します。

*一定面積の土地に対し、労力や資本の投下が少なく、自然の力に頼って営む農業

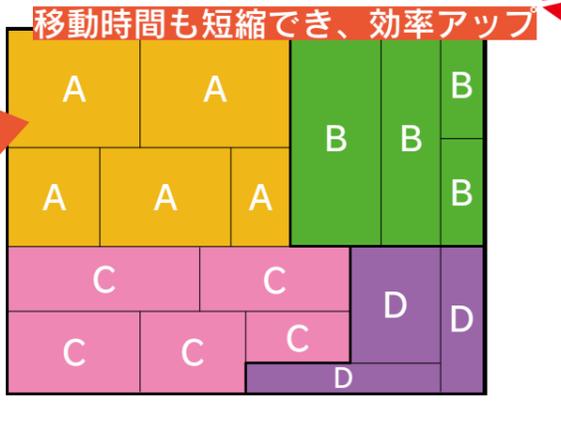
① 現状地図の確認

地図ごとに現在の作り手を色で表した地図を作成します。



② 【目標地図】の作成

耕作地を入れ替えてまとめることで、作りやすさの効率が上がります。



具体的なスケジュール

最新情報は市公式HPからご確認ください。



令和5年12月以降

意向調査

先行3地区に将来の農地利用に関する意向調査の発送、実施。

2月17日(土)

意見交換会

地域計画の概要の説明と地域ごとの策定エリアと将来の農地利用の話の実施(下記参照)。

3月以降

目標地図の素案

地区ごとに協議の場を設置し、目標地図の素案の作成に向けて話し合いを実施。

夏以降

市内の各地区へ

残りの地区の意向調査の発送、協議の場設置、目標地図の素案の作成。

農業について、地域の方とお話をするチャンスです！

地域の農業の未来を考える 意見交換会

どなたでも参加可能！

農業者委員会事務局

- ▶ **会場** ベルウィンこもろ (相生町 2-3-5)
- ▶ **参加者** 地域の農業者、中山間地域等直接支払制度組織、多面的機能支払制度組織、農業委員、推進委員、JA、土地改良区、その他地域の関係者 など
- ▶ **内容**
 - 地域計画の概要について制度説明 (長野県、長野県農業会議より)
 - 意見交換会 (地区別)
 - 地域の農業の現状と課題、地域における農業の将来の在り方、地区毎の今後の協議の進め方 など

【地域計画】策定にむけた具体的な取り組み内容

- 各地区内で【目標地図】を作成するエリアを設定
- エリア内の農地所有者の方へ、将来の農地利用に関する意向調査票を発送
- 意向調査の結果を地図に反映し、地図を活用しながら地域での話し合い
- 地域ごとの集約化に関する将来の方針と【目標地図】の作成